

次世代 HERO

Next Generation's Hero



かけがわれおん
掛川零恩 さん

やまぐち高校生2020メモリアルカップレスリング競技大会 個人80^{キログラム}級優勝

指導者である父のもと、生後数カ月後から、レスリングの練習場に行き、3歳から本格的に始める。



豊

浦高校でレスリングをするため、周南市から新幹線通学をしている1年生の掛川さん。高校に入学して初めての大会である、やまぐち高校生2020メモリアルカップレスリング競技大会の個人80^{キログラム}級で優勝しました。

「個人より団体での優勝がうれしかったです」と笑顔で話す掛川さん。豊浦高校レスリング部の18年ぶりの団体優勝にも貢献しました。

昨年は、中学生の全国大会で日本一になり、U15アジア選手権では2位。進学先には、文武両道で知られる豊浦高校を選びました。週6回、1日2時間の質の高い練習には、国体チャンピオンが参加することもあり、さらなるレベルアップを図っています。

「目標は、U17世界大会の優勝。夢は、豊浦高校OBで、東京オリンピック金メダリストの花原勉さんのようにオリンピックで優勝することです」

ボートレース下関 市民生活への 貢献



市長コラム
希望の風
市長の部屋



これからも、下関市が希望の街になるように、ボートレースの力を借りながら、子育て、医療、福祉などに一層力を入れていきます。

こんにちは！市長の前田晋太郎です。先日、29年ぶりに「SGボートレースメモリアル」という国内屈指の大きなレースをボートレース下関にて無事開催することができました。

8月末に6日間行われたこのレースは、売り上げ目標150億円に対し、179億円という大きな実績を残す結果となりました。

最近のボートレース場は、昔の暗いイメージではなく、全国的に明るく親しみやすい施設へと生まれ変わっています。

本市でも、昨年4月にボートレース下関がBOATRACE振興会およびボートネルド社と協働で、屋外の遊び場「ボートキッズパークモヴィ下関」を設置しました。さらに本年秋には屋内エリアを増設する計画で、多くの子育て世代に楽しんでいただけるよう準備を進めています。そして何といてもボートレースは市の財政に大きく寄与しています。

昨年、市内小・中学校のすべての教室にエアコンを完備しました。が、収益の一部をその財源に充てるなど、新型コロナウイルス対策も含め、ボートレースの収益はさまざまな形で市民生活に役立てられています。